

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 273-0048

所在地 千葉県船橋市丸山2丁目10番15号

評価機関名 NPO法人 ヒューマン・ネットワーク

認証評価機関番号

機構 06 - 163

電話番号 047-404-6300

代表者氏名 吉谷 健二

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0306095
	②		福祉	H1801012
	③		福祉	H1701027
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認証保育所A型・B型			
評価対象事業所名称	ココファン・ナーサリー霞が関			
事業所連絡先	〒	100-0013		
	所在地	東京都千代田区霞が関2-1-3		
	TEL	03-3519-4465		
事業所代表者氏名	園長 広川 明弘			
契約日	2019年 7月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 8月 19日			
利用者調査結果報告日	2019年 9月 16日			
自己評価の調査票配付日	2019年 8月 6日			
自己評価結果報告日	2019年 9月 16日			
訪問調査日	2019年 9月 27日			
評価合議日	2019年 9月 28日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は直接匿名で評価機関に郵送して頂き、意見が言い易い様に配慮した。評価は事業所が理念・方針・目標をどの様に実践しようとしているのか、そのプロセスを組織運営の専門家と保育現場を熟知した専門家が丁寧に確認し、偏りが無いように合議を重ね公平公正な評価を心掛けた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2019年 11月 1日

事業者代表者氏名 代表取締役 小早川 仁

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【学研ココファングループ理念】 すべての人が心ゆたかに生きることを願い 今日感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します</p> <p>【保育方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★子どもの養護と教育を両輪とした、子ども主体の心と体の育ちの支援 ★子ども一人ひとりの認知・発達に応じた個別の発達支援 ★地域社会のすべての子育て家庭に対する、様々な取り組みによる育児支援 <p>【保育目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★基本的な生活習慣が確立した子 ★心も体も自立した子 ★自律した行動がとれる子 ★他人に対する思いやりと寛容な気持ちを抱き、援助ができる子 <p>【ココファン・ナーサリーの取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★子どもが本来持っている「育ちのチカラ」を伸ばします ★子どもの主体的な活動を援助し、子どもの発達を促します ★養護と教育の一体化を実践し、家庭と連携します
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>①コミュニケーション能力の高い人材 ココファングループが提供するサービスは、個人が単独で提供するものでなく、チームで協力しながら提供していくものです。したがって、相手の考えに耳を傾け理解する姿勢と、自分の考えを相手により良く伝える工夫が必要です。</p> <p>②成功・達成させる信念をもっている人材 ココファングループでは、企業理念・ビジョンの実現に向けて、仕事の成功・達成を求めています。社員それぞれが成功・達成するためにはどうしたらよいのか、自分はどの行動すべきか、成功・達成するための信念を持ち、将来を予測しながら、柔軟な発想で仕事を進める人材を求めます。</p> <p>③責任感がある人材 ココファングループでは、すべての社員個々の職務・ステージに応じて「期待する役割」を設定しています。個々の役割を果たしていくことで個人のスキルアップ・キャリアアップが図られ、ひいてはグループ理念・ビジョンの達成につながるという考えに基づいた人事評価制度を取り入れています。 自らの役割を理解し、強い「責任感」で仕事を完結できる人材には、経験・キャリアを問わず、様々なステージが用意されています。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>①子どもを好きでいてほしい:子どもの気持ちをどんな時でも受け止められるような保育者であってほしい。 ②プロとしての使命感:プロとして、技術・知識が足りなければ、自ら勉強をして、自分の腕を磨き保育のプロになってほしい。 ③経験を積み上げる:子どもと過ごしていく日々が積み重ねることで、経験という大きな財産を積み上げてほしい。 ④仲間を大切に:チームワークが一番大切な仕事である。自ら相手を思いやり、大切にすることを大切にしたい。 ⑤ココファンマインド(約束)を守る:嘘をつかない・逃げない・ごまかさない の3つを守ってほしい。 ⑥信じてくれている人を裏切らない:私たちのことを信頼してくれている保護者や子ども達を裏切らない気持ちを持ってほしい。 ⑦自身の役割を果たす:それぞれに与えられている役割に責任を持ち、役割を果たしてほしい。</p>

調査対象

利用する全園児の保護者を調査対象とした。（兄弟・姉妹で利用している場合は一世帯一人とした）

調査方法

保護者に挨拶文とアンケートを配布して頂き、アンケートは匿名で直接評価機関に郵送して頂いた。

利用者総数

10

利用者家族総数（世帯）

8

共通評価項目による調査対象者数

8

共通評価項目による調査の有効回答者数

7

利用者家族総数に対する回答者割合（％）

87.5

利用者調査全体のコメント

総合満足回答は「大変満足」86%「満足」14%で満足以上の回答計が100%と極めて高い評価であった。項目別に90%以上の「ハイ」回答の項目は「園での活動が心身の発達に役立っているか」「活動は興味や関心を持てる内容か」「食事は配慮されているか」「戸外遊びは十分確保されているか」「時間変更は柔軟に対応してくれるか」「職員と相談することが出来る信頼関係があるか」「職員の言葉づかいは丁寧か」「怪我など職員の対応は信頼できるか」「職員は子どもの気持ちを大切にしてくれるか」「プライバシーは守ってくれるか」「保育内容の説明は分かり易いか」等であった。80%以上の項目は「園内は清潔か」「子ども同士のいさかいの対応は適切か」「第三者委員に相談出来る事を説明してくれたか」等であった。70%以上の項目は「行事日程は配慮があるか」「不満・要望はきちんと対応してくれるか」等であった。60%以上の項目は「安全対策は十分か」であった。50%以下の項目は無かった。70%以上「はい」回答が殆どであり大変高い評価であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	7	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「友達もでき楽しそうです」「先生や友達との関係も良好で保育園を楽しんでいる」「以前より興味を持つ様になった」等であった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	7	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「友達がやっている事に興味を示し視野が広がっている」「保育士さんが工夫して様々な活動を行って下さっている」「自由遊び以外の時間では知育を考えた遊びなども取り入れている」等であった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	7	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「飾ってある給食を指さし、食べたことを教えてください」「工夫を凝らして作って下さっている」「栄養バランスのとれた美味しい食事に感謝している」等であった。要望として「朝のおやつの配慮」が寄せられた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	7	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「散歩は大きな公園が近くにあり素晴らしいと思います」「外遊びはもっと近くの公園だけでも緑が多いので十分」等であった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	6	0	0	1
非該当回答1名を除くと「はい」回答率は100%であった。自由発言としては「とても助かっている」等であった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	4	3	0	0
「はい」回答率は57%「どちらともいえない」回答率は43%であった。自由発言としては「異年齢保育時はトラブルが起こらない様にとの要望が見られた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	5	0	2	0
「はい」回答率は71%「いいえ」回答率は29%であった。自由発言としては「行事は全て平日開催となっている」「平日参加が難しい方には大変かも知れない」等の意見が寄せられた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	7	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「素晴らしい対応で感謝している」等であった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	6	1	0	0
「はい」回答率は86%「どちらともいえない」回答率は14%であった。自由発言としては「ゴミ袋の処理」の改善要望があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	7	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「いつも笑顔で対応して頂けます」「先生方が素晴らしく丁寧に、優しく対応して下さいるので、安心して預けている」等であった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	7	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「すぐに連絡を頂けるので安心です」等であった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	6	0	0	1
無回答非該当の回答を除くと、「はい」回答率は100%であった。自由発言としては「喧嘩はお互いです、知らせて頂けると教育上ありがたい」等であった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	7	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「子供にたくさんの愛情を注いで下さっている」「一人ひとり子どもに親身になって保育を行って頂いている」等であった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	7	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言は特に無かった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	7	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「子供だけでなく、保護者にも相談にのって下さる」等であった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	5	1	0	1
「はい」回答率は71%「どちらともいえない」回答率は14%であった。自由発言としては「忘れられたことがあった」との改善要望があった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	0	1	0
「はい」回答率は85%「いいえ」回答率は14%であった。自由発言は特に無かった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	理念は入職時や研修時に代表が熱心に話され理解が進んでいる 保育理念・方針・目標について職員の理解が深まるように、入職時やその後の研修で会社の代表が熱心に事例を交えて分かりやすく繰り返し説明し、また、園内では職場会議時に実践例を園長が説明している。実践するために全体的な計画や指導計画に保育目標を提示して具体的な保育内容を展開している。保護者には保育内容を毎日口頭やブログ、園だよりクラスだよりで伝え、子どもの成長を丁寧に伝え、保護者の理解は進んでいる。職員には今後さらに保育理念の実践を話し合う事で一層深く理解が進むように期待したい。	
	子ども一人ひとり丁寧に関わり保育の質を高めるために様々な努力をしている 運営ガイドラインに施設長の責務と業務が明示されている。昨年就任されその後主に取り組まれた内容は、①小規模の園の特徴を活かして子ども一人ひとり丁寧に関わり保育の質を高める事②保護者に子供の成長を伝え意見を聞き共に子どもの成長を楽しむ事③職員には話し合いを大切に相談ごとは皆で決める職員主体の運営をする事④職員個人面談を2～3ヶ月ごとに行い職員の意向を尊重する事⑤希望休や有休、残業削減、シフト編成配慮など就業状況を改善をする事⑥保育環境の整備をする事などであり、質の高い保育を提供出来る様に努めている。	
	園内の検討事項は職員の主体性、自発性、納得性を重視した話し合いで検討している 本社決裁が必要な案件は、園内の担任会や職員会議で協議し、稟議書・決裁書を起案し決済を受け決定事項を職員会議で説明し回覧等で周知している。園内での検討事項は、職員の主体性、自発性、納得性を重視し、全職員が会議に参加して意見を言えるように配慮している。さらに会議の発言を活発に行うために、人数を絞った会議で意見交換したり、事前に議題を提示したり工夫をしている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者ニーズ、職員ニーズをアンケートや日常会話で把握し課題改善に取り組んでいる</p> <p>保護者ニーズは、保護者全員にアンケートで保育内容や職員の言動など保育全般に意見を頂いて把握し、運営委員会で議題に取り上げて検討している。また、日常送迎時の会話でも把握しサービス改善に取り組んでいる。職員ニーズは日常のコミュニケーションや会議、年4～5回の個人面談等で把握し会議の運営や就業状況の改善に取り組んでいる。区や業界の動向やニーズは区や都の会議・研修に参加し、また、本社からの情報で把握し、地域ニーズに対応出来る様に0歳児枠の増加など検討している。</p> <p>計画では保育の質向上、保護者の信頼向上、職員満足向上など重要課題を上げている</p> <p>中期計画が本社より示され、3年間の目標として、理念・方針の実践目標、保育計画の目標(保護者支援、地域支援)、園運営計画・目標(園運営)職員育成計画・目標(職員体制、人材育成)等が計画されている。今年度の重要計画は①保育内容を充実して、子どもが安心して夢中になって遊べるよう保育者の関わりと環境設定を工夫する事 ②保護者に保育内容を連絡帳やブログ、口頭で伝え安心して子どもを預けて頂く事 ③職員の働きやすい職場、職員主体の運営等で仕事の満足度を高める事等が重要計画である。</p> <p>年度計画を5W1Hで具体化しPDCAサイクルを回す様に望みたい</p> <p>3つの重要計画は達成に向けて日々努力し、毎月の職員会議で個別テーマで話し合い共有している。出来れば次年度は3つの目標について5W1Hで具体化し毎月の会議で進捗を把握しPDCAサイクルを回す様に期待したい。また、別途 指導計画に関するPDCA、職員個人目標のPDCAと合わせて3つのPDCAサイクルを意識して組織力の向上を望みたい。年度計画の作成には職員の参画のもとで検討する事も望みたい。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
<p>運営ガイドラインで倫理綱領や服務規程、個人情報保護など網羅的に規定し研修している 運営ガイドラインに保育理念・方針・目標、倫理綱領、服務規程(基本ルールや言葉づかいなど保育者の心得)、子どもの人権(保育指針、憲法、児童福祉法、児童憲章、子どもの権利擁護条約など)、虐待防止、個人情報保護方針等を規定し、園内研修で毎月定期的に各項目を再確認している。また、コンプライアンスコード冊子を配布し、eラーニング研修を年1回受講している。年2回自己評価チェックシートにて基本項目を確認し、改善点を自覚し「気づき」を基に改善する様に努めている。</p> <p>苦情解決制度は入園説明会や保護者会にて説明し周知している 苦情解決制度は重要事項説明書(苦情解決の体制、苦情解決の手順など)に記載し、入園説明会や保護者会にて説明している。また、個人面談や連絡帳、意見箱等で苦情・要望を受け、苦情・要望が出た場合、内容によっては本部・区とも連携し解決する仕組みが整備されている。また、運営委員会の前に保護者アンケートをお願いし意向を把握している。制度を活用する様な事例は1度も発生していないが、日常的に意向を確認し改善に努めている。今回の保護者アンケートの結果では制度の理解が大変進んでいると思われる。</p> <p>虐待防止の園内研修を行いセルフチェックにより子どもの権利を大切にしている 運営ガイドラインに基づいて、子どもの人権擁護や虐待防止に関する園内研修を行い、年2回セルフチェックを実施して子どもの権利を大切にしている。また、運営の透明性を高めるために会社のホームページで情報を公開し、財務状況など公表し、また、第三者評価を受審している。地域貢献とし官庁内の保育園であり限定されるが、子連れの来庁者がオムツの交換や授乳の場を希望されたときに場を提供している。地区の園長会での情報共有としては、子どもの交通事故防止のため危険個所の確認や虐待事例の共有などを行っている。</p>		
カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>重大事故に繋がるリスクの優先順位を検討し事故防止に努めている</p> <p>リスクに対する優先順位は時期によって夏なら熱中症や水遊び、冬にはインフルエンザ感染症など検討し研修し注意を払っている。また、SIDS、アレルギー、誤食・誤飲、プール等重大な事故に繋がる事故防止策は定期的に研修の上チェック表等にて確認している。怪我など事故防止対策は事故報告書、ヒヤリ・ハット報告書を書き、子ども別、事故別、職員別に対策を絞り具体化し防止している。また、園内の整理・整頓、危険個所の確認、公園等の危険個所確認など総合的に確認し事故防止に努めている。</p> <p>火災や地震など想定し避難訓練を行的確な対応が可能ないように備えている</p> <p>毎月、地震や火災、水害、不審者侵入など想定し場所や時刻を変え、また、避難ルートを変更して避難訓練を実施し的確な判断が出来る様にしている。また、区では広域避難場所は廃止されたので有事の際は庁舎内で避難対応し、在園時での対応を決め保護者と連絡方法を決めている。大地震等の大災害時の事業継承計画は本社で策定・見直し、体制や災害時対応チェック項目、情報のバックアップ、備蓄品、感染対策などの計画を整備し大災害時に備えている。</p> <p>個人情報保護規定は職員は宣誓書で誓い、保護者には同意を得ている</p> <p>個人情報保護規定に基づき、保護者には重要事項説明書で説明し扱いについて同意書を頂いている。職員は入社時に誓約書を提出し、退社時にも誓約書を頂く様にしている。情報の管理は紙ベースの園児用のファイルは職員が活用できるように鍵付の保管庫に保管し、パソコン情報は園長とスタッフの使えるパソコンを分け、資料はクラウド上に保管しメールの資料添付は廃止するなど情報漏えいを防止している。また、資料の管理は運営ガイドラインの規定に沿って収集・利用・保管・破棄している。</p>		
カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当

評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
----------------	----------------------	-----

評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

新人は理念の理解など基本を学び、コーチ役が付き1年間で研修項目を体得する
 職員は本社で採用し当園に配属が決まる。新人は本社での配属前研修で理念の理解とグループマインドを醸成を求められ、その後年4回基本習得のBasic研修を受ける。4月より園で先輩がコーチ役となり何でも聞き易い体制で1年間現場でOJT指導を受け、スタート研修項目・ベーシック研修項目等を学び、3ヶ月毎にチェック表にて自己申告をし、コーチと共に確認し個人別の進捗に合わせて成長を図っている。コーチになる職員はコーチ研修を年4回を受け、教えることで共に成長する機会となっている。

具体的なスキル確認項目で目標を決めOJT指導や研修で成長を図っている
 求められる能力として「期待役割シート」に基本、中級、上級のクラス別に共通ベーシックスキル(理念、業績、自己啓発など)、専門スキル(基本スキル、子どもとの関わり、人との関わり、表現、環境設定など具体的な内容)として明示され、職員は自己評価し個人の目標を項目別に具体的に設定した上、園長の面談を受けOJT指導や研修を受け成長を図っている。研修は階層別研修としてコーチ研修、リーダー研修、管理者研修が有り、別途専門研修がある。また、都や区が実施する各種専門研修を希望や必要に応じて受講している。

希望休配慮、残業削減、個人面談など働きやすい職場づくりに努めている
 働きやすい職場づくりに取り組んだ内容は次のとおり。①残業時間を毎月確認し個別に負担軽減を検討し残業削減の成果が上がっている。②有休休暇・希望休が公平に取得できるようにシフト編成を配慮しワークライフバランスを目指している。③職員とは2~3ヶ月毎に個人面談して考えを聞きモチベーションの向上に努めている。④人間関係の配慮として、挨拶は笑顔で目を見てする様に心掛け、職員間で相手を尊重して助け合うことを大切にしている。⑤保育園らしい環境整備等々に努め職員定着率の向上に努めている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

(職員の育成と働きやすい職場づくりによって職員定着率の向上を図る)
 前々年度は十分な職員体制ではなかったが、前年常勤3名と非常勤1名を採用した。全職員に園内研修と外部研修に参加させ、職員別に個人目標を設定し、2~3ヶ月に一度個人面談で職員の考えている事を把握し助言した。また、職員会議で情報共有する機会を増やし、日々声掛けしモチベーションの向上に努め、働きやすい職場づくりとして、シフト勤務の工夫を行い残業時間も削減、希望休・有休の公平な取得、親睦会の実施、挨拶は笑顔で、職員間で相手を尊重して助け合うことなど働きやすい職場づくりに努めた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

働きやすい職場づくりの成果は上がっていると思われるが、休暇などの取得は申請しシフト配慮で行うが、他の職員への負担増に遠慮があり、再度公平に助け合って全員が透明化した状態で休暇を取得できるような体制作りを望みたい。休憩の確保も同様である。また、質の高い保育を行っており、保護者の感謝の声が大きく、働き甲斐のある職場になっていると思われる。今後さらに保育者が主体になって、理念のもとに「やりたい保育」は何か話し合い、目標を職員主体で決め、一層高い質の保育を目指して、保育を振り返る機会をつくり活発な意見交換をすることを期待したい。

評価項目2
 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

(保育園の保育環境の整備に力を入れた)
 昨年園長が着任した時は保育環境は十分に配慮された環境では無かった。そこで取り組んだ主な内容は①置物や飾り物を減らして、空間をすっきりさせた。②保育室ドアガラスの衝突防止シールを保育園らしいものに張り替えた。③植栽や食育の一環として、野菜等をプランターに植えて育てた。④生き物に親しめるよう、水槽を置いて、小さい魚を飼うことにした。⑤非常食・水の置き場を園内に変更した。⑥クラスごとにクラスだよりを発行するようにした。⑦図書カードを発行し、絵本を貸し出す体制を整えた。⑧年齢にあった絵本を相当数買い増した、等々に取り組み中央官庁内の保育園であるが保育園らしい雰囲気が作られている。

目標の設定と 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

環境整備ではかなり努力し、植物の栽培や水槽の設置、設置物の片付けなど努力成果は上がっている。さらに環境整備としてハード面では棚の設置による保管場所の合理化、床のソフト化、冷暖房空調設備の増設など希望されている。現状でもボードなどの展示物の整理は必要と思われる。また、各種書類のファイリングなどには工夫が出来そうである。限りなく不断に見直し環境整備を続け、一層良い保育環境整備を期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>ホームページで詳しく園の理念や活動内容の情報を提供している 情報提供手段として見やすく、理解しやすいホームページの充実に取り組んでいる。保育理念「すべての人が心豊かに…明日への夢・希望を提供します」を掲げ、保育方針、保育目標（目指す子どもの姿）、園の特徴、保育料、一日の流れ、年間行事予定、よくある質問を載せて分かり易く紹介している。保育、園生活については写真にコメントを付けて理解しやすくしている。また会社や区、地域のWeb、園パンフレットなどでも情報が入手できるようにしている。</p> <p>問い合わせ・見学には保護者のニーズに対応して丁寧に案内している 希望者にはホームページやパンフレット、問い合わせなどで情報提供をするとともに、見学希望者に対しては見学説明を行っている。週3回程度の予約制で日に2組以内、約40分をかけて園長が対応し、子どもが遊んでいる様子や表情、保育者の関わりなど見ていただき、園の理念や目標、絵本コーナーや食育など特色ある取り組みを丁寧に解説している。保護者からの心配ごとや知りたいことなど相談にも丁寧に応じている。電話による問い合わせには随時回答している。</p> <p>事業所のサービス利用が困難な家庭には他の関係機関を案内し支援している 運営状況や空き状況を定期的に区に報告している。地域子育て支援サービス、一時保育事業の案内を一緒に行っている。サービス利用が困難な場合には理由を説明し、園で用意した待機リスト掲載への希望を伺っている。また必要に応じて区への相談を勧めているほか、在園児で病気の場合などは区内の病後児保育施設の案内をして支援している。来庁者でおむつ交換や授乳の場を希望して来園された方を受け入れるなど園で出来ることも積極的に対応している。</p>		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園説明の際には重要事項説明書に基づいて園のことを分かり易く説明している 入園にあたっては入園の前月に生活の手引きという重要事項説明書をもとに分かり易く説明している。重要事項説明書には基本理念や方針、目標、特色、保育時間と内容、保育料、子育て支援事業、準備物、家庭との連携、保健・健康、苦情要望、個人情報取り扱いなどについて記載されており、園のことが分かり易く記載されている。重要事項説明書は毎年見た上で今年度は生活の手引きの最後にまとめページを付けて保護者が利用しやすいように工夫している。入園に際し保護者に同意を得て契約書を提出していただいている。</p> <p>新しい環境に慣れるように、子どもや保護者の状況に合わせた柔軟な対応をしている 新入園児については慣らし保育の期間を設け、不安やストレスを軽減し無理なく園生活に慣れるよう柔軟な対応をしている。入園時に把握した発達状況や情緒面、食事の摂取状態、保育経験、保護者の就労状況などに配慮しスケジュールを作成して行っている。1～2週間の期間で保護者と子どもがクラス担任との信頼関係を築けるように努めている。入園時の個人面談で把握した子どもの心身の発達や癖、好きな遊び、愛称などを参考に保育者が関わりを持ち無理なく園生活に慣れるように進めている。</p> <p>個人面談や成育歴などで子どもの様子や保護者の意向を確認し保育に活かしている 入園説明後に個人面談を行い、家庭での様子、成育歴、保護者の意向などを把握し保育に活かしている。児童票、生活状況記録、健康調査票、食材進捗確認表、生活管理指導票、アレルギー有無確認表を使い把握確認している。食材進捗表については、入園までに未摂取の食材は家庭で試してから提供になるので、説明確認を丁寧に行っている。質問事項や保護者の意向は面談記録に記載され確認できるようにしている。サービスの終了時にはいつでも遊びに来て良い旨を伝えている。今年度は親子遠足実施にあたり卒退園児家庭に連絡し再会の機会を設けた。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

12/12

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリー3の講評			
<p>指導計画の作成と見直しが適切に行われ、保護者に説明している</p> <p>保育理念に基づき、養護と教育を一体的にした全体的な指導計画を作成し、年間指導計画に繋いでいる。年間指導計画の落とし込みから月間指導計画・週日案・個別月案・食育計画を各クラスごとに作成している。クラス懇談会や個人面談では園・担任の指導方針や考え方を、子どもの発達の見通しとともに説明している。月間計画はその都度子どもの様子や振り返りを行い、見直しされ、次月案に反映されるように園長と担任が毎月確認を行っている。保護者に散歩先や目的が分かる週日案計画を掲示して周知していくなど具体的内容の理解の取り組みに繋がりたい。</p> <p>各おたより、ブログ、コミュニケーションで保育内容を保護者に分かり易く説明している</p> <p>子どもの活動の様子は毎日、ブログや連絡帳、送迎の際のコミュニケーションの中で保護者に伝えている。伝える中では保育理念にもある「今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望」を与えられるよう配慮して行っている。子どもの様子は成長の力や変化をとらえて具体的に話し保護者と共有できるようにしている。また園、クラス、給食、保健、絵本だよりを写真入りで月1回発行し様子を伝えている。連絡帳は複写式で、子どもの様子を24時間家庭とともに把握でき、生活の流れが繋がるようにしている。活動内容は毎日ブログで確認できるようにしている。</p> <p>記録を基に個々の子どものさらなる成長のため職員間の共有の工夫に期待する</p> <p>個々の子どもの心身状況や生活状況は月間指導計画案とともに「経過記録」を作成し記録している。個々の成長を0～1歳児は毎月、2歳児は期ごとに項目チェックと育ちを確認記入している。週日案の評価反省はクラスの対話や園長との確認で行われているが、職員会議で写真やつぶやき、エピソードから拾いあげた実践について保育者の環境としての関わり方を話し合い、次回に繋がるよう職員間で共有し、保育の質の向上を図りたい。身体測定を毎月、健康診断を年2回、歯科健診を年1回行い健康カードに記録しておりその都度、保護者に用紙で報告している。</p>			
サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○	非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○	非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○	非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○	非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○	非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どものプライバシー保護を徹底し必要が生じた場合は個人情報を提供をしている</p> <p>重要事項説明書、運営ガイドラインの個人情報保護方針の中で個人情報の取り扱いについてとして謳っている。園内研修をし年1回は具体的に、見直しをしている。サービスの提供や利用料、支払いについて、グループ他社等へ個人情報を知らせることがあること、園内への写真の掲示やブログへの写真掲載の許可などについては同意書を頂いている。保護者が記録するビデオ、写真はSNS等への掲載は控えることをお願いし、ブログについてはパスワードで保護し、あまり広めないようお願いしている。</p> <p>日常保育の中で生活習慣や子どもの羞恥心に配慮した保育に努めている</p> <p>家庭からの意向を入園時に確認するとともに、都度連絡帳に記載頂いたことについては、保育所で出来る部分は受け止める配慮をしている。トイレトレーニングで、家庭でのやり方を取り入れ保育所でも誘い成功した例がある。オムツ替えや着替えは外部から見えない奥まった場所で行う、水遊びの際はブルーシートで目隠しをするなど子どもの羞恥心に配慮した保育に努めている。</p> <p>日常保育の中で子ども一人ひとりを尊重して見守る保育を実践している</p> <p>職員会議、研修等を通して保育理念に基づき子ども一人ひとりの家庭環境や生活習慣に最大限に配慮できるよう話し合い、見守る保育を実践している。定期的に個人の尊厳について確認し合い学び合って実践に努めている。一方的に叱ったり怒ったりはしないで、大人の都合に合わせて急がせない、他の子と比べない事を共有し心がけている。おもちゃを取り返す、友達を押してしまう等、危険が伴うことについては身振り手振りで「貸して」「いっしょにあそんでもいい?」「仲良くね」と具体的な言葉と動作を添えて人との繋がりを伝えている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○	非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○	非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○	非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○	非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○	非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>手引き書等で園が提供しているサービスの基本事項や手順書を明確にし共有している</p> <p>基本事項や手順は全社共通のマニュアル、運営ガイドラインで明確にし職員で共有・確認をしている。常時事務所に置かれていて業務点検の手段として活用している。運営ガイドラインは様々な分野について作成されており、それに基づいて保育を提供できる仕組みが構築されている。他に行方不明時対応マニュアル、園外保育マニュアル、衛生管理マニュアル、子どもの人権に配慮したマニュアル等もある。リスクマネジメントなど統一的に行う事と、子ども一人ひとりの個別支援の創意工夫を両立し、保育の質の向上に努めている。</p> <p>提供しているサービスの基本事項や手順書等は見直しの基準が定められている</p> <p>法律が変わったタイミングや利用者のニーズにより、必要に応じて本部に申し入れ話し合い、慎重に見直しを進めていくようにしている。運営ガイドラインについては本部で委員会を立ち上げ毎年更新できる態勢を整えている。園の運営やサービスについては年2回の運営委員会の開催で意見交換され見直しが行われている。職員からの見直しもその都度受けているが定期的に話し合いをして全体に意識化するよう心がけている。</p> <p>手順等の見直しは職員や保護者からの提案、子どもの様子を反映するようにしている</p> <p>個人面談や運営委員会、アンケートを通して保護者の意見を取り入れている。職員に関しては個人面談、職員会議等を通して意見を取り入れ反映させている。1才児のエプロンをポケットのあるエプロンに、食事時の「頂きます」の手はパッチンと叩くのではなく軽く合わせる等、寄せられた意見に対しすぐに対応した例もある。アンケートの意見を踏まえ親子遠足を行ったり、父の会は保護者参観に含めたりと内容を変化させている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(00000)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	●非該当	
評価項目1の講評			
<p>保育目標である「育ちの力」を伸ばす保育の環境に取り組んでいる 一人ひとりの個性に光を当て、子どもたちが本来持っている育ちの力を伸ばす保育を目指し、良質で豊富な体験ができる環境づくりに取り組んでいる。乳幼児ならではの甘えを十分に受け入れ、安心して過ごせる環境づくりを計画実践している。保育者の優しい言葉かけや笑顔、目と目を合わせて話をすることで心身が満たされ、より豊かに成長できる環境の中で経験ができるよう少人数をいかして取り組んでいる。低年齢の合同保育、体力づくりや自然遊び出来る散歩、絵本の充実などで日々の積み重ねを大切にしながら取り組んでいる。</p> <p>子どもの現状を把握し一人ひとりを尊重した保育を行っている 家庭での様子は連絡帳、登園チェック表、送迎時の口頭、面談で把握した内容を個別に記録し個々の把握に努めている。朝夕の時間帯には合同保育になり異年齢の遊びが始まり、大きい子と小さい子が一緒に遊んでいる。下の子は大きい子の真似をして一緒に遊ぶなどその子なりの関わり方を大切に保育者は見守り、接している。短い時間でも楽しく遊べた満足感や自信が持てるように支援している。運動遊びに使用するトンネルや椅子、積み木、仕切りが手づくりされていて、棚にはすぐに取り出せるよう動線に合わせた玩具が数や種類を揃えて用意している。</p> <p>噛みつきやトラブルの対応は環境設定や寄り添いの配慮で更なる成長に繋げている 発達の過程で起きる噛みつきやトラブルは原因を発達や経験不足などから捉えている。環境設定の見直しや子どもの気持ちに寄り添い、保育者が一緒に遊び楽しさを味わえるようにしている。出来るようになったことは褒めるようにし、同じような機会に出会ったときは保育者が言葉にして励ますなど常に脇に寄り添い子どもの気持ちを確認するよう配慮している。保育者同士の共有はコミュニケーションで行われているが、職員会議で事例を報告する機会を設け、話し合いから共有していく取り組みを期待する。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭の協力を得て基本的な生活習慣が身につくように援助している 保育目標に「基本的な生活習慣が確立した子」を掲げ、発達段階を踏まえ、無理なく子どもに合わせた援助を行っている。生活習慣の習得の取り組みのため、生活の流れを工夫し、意欲的に取り組めるよう時間の確保をしている。重要事項説明書に基本的な生活習慣のお願いが記載され、個々のペースで最後まで出来るように園・クラスだよりでも状況を紹介している。会社の取り組みとして、うがいや手洗い、着脱など絵本を使って園で読み聞かせて実践している。月末には家庭でも同じ方向で継続できるよう絵本の無料配布を行っている。園と家庭が協働で進めている。</p> <p>保護者との協働で連続性のある保育に心がけている 登園時は必ず保護者から受け入れ、体温計測、連絡帳、登園チェック表、口頭により家庭での様子を確認している。0, 1, 2歳児のため24時間の生活が確認できる複写式の連絡帳で食事、睡眠、排泄を確認して家庭と連動したリズムで生活できるよう配慮している。食事は朝食、離乳食の状況、睡眠は就眠の時間と目覚めを把握し午睡への連続性を持たせている。一人ひとりに合わせ、早めに休息、午睡を設定したり先に目覚めた子は静かに遊ばせたりといった対応をしている。延長保育は長時間になるため、体調や休息スペースに配慮して保育が行われている。</p> <p>コミュニケーションで丁寧に様子を伝え安心して帰ることが出来るように配慮している 連絡や活動状況、その日の様子などを連絡帳や口頭で保護者全員に伝えている。コミュニケーションを大切に保護者との信頼関係をつくり、気軽に話し合え、不安や分からないことがないように配慮している。降園時は一日の終わりに安心感が伝わり、明日への意欲が持てるような言葉かけを実践し継続している。子どもの活動内容は利用者に対してのみブログで発信している。アンケートでも保護者対応は「いつでも明るく対応していただけている」と高評価を得て、園としては子どもや保護者にとって居心地がよく安心していただける場所であることを目指している。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>散歩を通して体力づくりと自然への興味関心を育てている</p> <p>毎日戸外に出て散歩を楽しんでいる。少人数のために合同での散歩が多く、目的に応じてコースを選び出かけている。自然の移り変わりや太陽の光の中で草や花に出会い運動したり解放感を味わったりして感性を高めている。目的地では保育者が積極的に遊びに誘うこともあるが、子どもたちは特に生き物に興味があり、ダンゴ虫集めが好きで指先を使って拾い集め関心も継続している。セミの抜け殻探しやバッタに出会い夢中になって追いかけたり逃げられたりと楽しい時を過ごしている。室内では絵本や図鑑を見る機会が増え、さらなる興味関心に繋がっている。</p> <p>絵本コーナーの充実で主体的に過ごせるような環境設定の工夫をしている</p> <p>玄関や室内には絵本コーナーがあり、いつでも好きな本を選んで見ることが出来る環境をつくっている。園長先生や担当職員で時期や年齢を考慮し是非見てもらいたい本を選定して、月1回入れ替えを行い絵本コーナーの充実を図っている。繰り返し見ることによって好きな本に出会う、見つけるなどの経験ができるよう絵本の貸し出しも行っている。生活の中で主体的に手を出し本を取って見ることにより言葉や表現の基礎を培っている。遊びの中で感性や知識を育てていく環境を計画し実践している。大人向けの書籍貸し出しでは育児力向上に繋がっている。</p> <p>指導案の活動と関連した遊びで保育の充実を目指している</p> <p>週日案の活動は午前と午後、雨天時に渡り計画されている。活動は保育士の関わりや配慮が活かされ反省評価に繋がるが、乳幼児は1対1の個別の関わりに子どもなりの意味があるため、丁寧に接するよう日々取り組んでいる。日案様式は子どもの状況を見て柔軟な変更もあるので変更した活動を記入し誰が見ても分かり様式を望みたい。また日誌(活動の様子)記入欄には環境や保育者の関わりがあると、次の遊びへの展開に繋がっていくので週案様式の工夫に期待する。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>保育者の素敵な演出や発想で雰囲気を楽しみ楽しむ行事の取り組みがある</p> <p>四季を生かした季節ごとの行事で遠足、こどもの日、七夕集会、夕涼み会、お月見会、クリスマス会、節分、ひな祭り等楽しんでいる。内容は各クラスの意見を組み当番が企画している。毎月の誕生会には自分の名前を言ってみると言う場面もあり、好きな歌や振り等年齢に合わせた参加の仕方を工夫している。アイデアの詰まった出し物が有り手袋シアターや紙芝居、クイズと興味深いものになっている。誕生日の歌に合わせて作り物のケーキを出しろうそくを吹き消してみんなで誕生児を祝い雰囲気を楽しんでいる。ちなみにおやつには本物のケーキを出しています。</p> <p>保護者参加の行事は親も子も楽しみながら成長を喜び合う機会となっている</p> <p>運動会やお楽しみ会、遠足、夕涼み会は保護者の参加協力を得た行事である。日程や内容を早めに知らせ参加しやすくなるよう配慮をしている。日ごろの保育所での成長を見て頂き一緒に喜び楽しめるように工夫している。保育室の利用によっていつもの場所ですぐに慣れ親しむ遊んだり体験で育ちを共感する機会となっている。運動会は親子触れ合い遊びで紙風船割り、平均台渡り、親子でのプレゼント取り等、お楽しみ会では遊びや遊戯を行い保護者同士も成長を喜び合う機会となっている。春の遠足は動物に親子で触れ合い思い切り楽しむ機会となった。</p> <p>公開する夕涼み会、敬老会でのお月見会は園外の人との関わりで視野を広げ楽しんでいる</p> <p>夕涼み会は7月の行事で参加者募集を、園前に掲示し2、3週間前からポスターを張り出している。園外の人参加もあり、PM4:00から5:00の時間帯で保育園児と親子と一緒に楽しむ機会となっている。折り紙や、ポーリング、お店屋さんのコーナーが有り親子でのリトミックや出張コンサートでフルートを聴くという時間も有り、保育所中笑顔一杯の行事となっている。敬老会は離れて住んでいる祖父母の参加もありお月見団子と一緒に作って玄関に飾り雰囲気を楽しむという企画で優しさをもらったり、元気をあげたりの交流で視野を広げ楽しんでいる。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心して、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○	非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○	非該当
評価項目5の講評			
<p>見通せる室内は子どもに安心感を持たせゆったりとした生活スタイルを構築している 保育室はワンルームを利用、クラスごとに区切りそれぞれコーナーを設けた生活スタイルで保育者や友達の顔がよく見えるようになっていいる。絵本コーナーや発達に添った玩具コーナー、パズルやおままごと、ぬいぐるみ等が置かれていていつでも安心して過ごせるスペース作りがなされている。1、2才児の動線に配慮した手洗い、トイレの用意も有り笑顔が見える室内作りで安全安心を基本に毎日を過ごしている。保育者も良く見渡せることで全体把握がしやすく、子どものペースを見守ることが可能である。信頼と安心の中で主体的に遊ぶ子の姿が見られている。</p> <p>一人ひとりの子と向き合った丁寧な保育でくつろぎ満足感のある一日を過ごしている 子どもが毎朝登園することを喜び、降園できるように心がけている。その時々気分や体調に合わせて、自分のしたい遊びを選択できるようにしている。担任外であっても信頼関係が築けていて安心して過ごしている。遊び、食事、午睡のバランスがとれ職員のチームワークで一人ひとりのペースを大事にしたサイクルで過ごしている。食事や午睡の時間は一人ひとりのペースに合わせて、保育者で分担し関わりながら進めている。食事中の子、午睡に入る子と空間をコーナーで仕切り、ペースを守って生活することでゆったりと落ち着いた流れを保っている。</p> <p>延長保育時は夕食の提供と共に安心して遊べる環境設定を行っている 昼間と同じ空間で過ごすことで安心感に繋がっている。職員は2名が担当で好きな玩具で安心して遊べるようパズル等の静かな遊びコーナーを作っている。乗り出し自動車など人数の少ないときに適する遊具で楽しむ工夫もしている。希望があれば夕食の提供もしている。迎えの保護者には急がしい時間帯でもあるので伝達事項をまとめて話すよう心がけ、その日の良かったことを伝える配慮で親子共々満足して降園出来るように心がけている。</p>			
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○	非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○	非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○	非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○	非該当
評価項目6の講評			
<p>給食は楽しい雰囲気の中で保育者や友達と一緒に味わっている 給食は安全に配慮した食材やだしを使用し、旬の野菜を使い薄味を活かした調理で昼、おやつ、夕食を提供している。月内で2回目のメニューの日は味や盛り付けに変化をつけて楽しんでいいる。1・2歳児クラスは新しい環境に慣れたころから保育者も一緒に食べていいる。保育者は手本となりマナーを伝え、無理強いせず完食に拘らず食べる意欲を大切に少しでも食した時には褒めて自信に繋げた取り組みをしている。朝食は一日の源であり、生活リズムを整える役割を持っていると入園時に保護者に説明し乳幼児期から食の大切さを知らせている。</p> <p>食育計画に基づき食材への興味や手伝いなど意欲的な様子を保護者に情報提供している 全体的な計画を基に食育年間計画「学びたくなる食育」を各年齢ごとに作成し取り組んでいる。野菜の栽培はピーマン、なす、オクラ、いちごなど生長を観察している。活動には指先を使った野菜洗いやちぎり、とうもろこしの皮むきなどがあり、0歳児も触って参加している。米とぎの手伝いなどの活動もある。会社から関連した図鑑や絵本が提供されさらに関心の幅を広げている。また言葉や表現の発達にも繋がり、様子はブログやクラス・給食だより、連絡帳、降園時口頭でも伝え保護者と共有した楽しみな活動となっている。</p> <p>食材や調理の工夫で無理なく食べ、食の幅を広げている よく噛んで食べる習慣をつけるための工夫をしている。すべて加熱はしてあるが、シャキシャキ感のあるキャベツやレタスなどは噛みにくいので切り方を変えて柔らかさを出し噛みやすくする、とろみをつけるなど一手間かけている。肉やスープは素材からの味をいかし、薄味で調理し、ドレッシングは手作りで味に変化を付けている。献立により食器を変え食べやすく提供している。離乳食は個々の発達に合わせて進め担任、栄養士、保護者と相談の上で提供している。玄関廊下にはその日の献立や量が分かるように、離乳食と幼児用のサンプルが展示されている。</p>			

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当	
評価項目7の講評			
<p>子どもが自分の健康や安全に関心を持ち病気や怪我の予防に繋がるように援助している</p> <p>毎日の生活の中で関わる食、排泄、午睡、遊び等について指導計画に組み込んでいる。温度、湿度、換気に配慮し薄着の習慣の配慮もしている。手洗いやうがい、鼻汁のかみ方等絵本を使い写真の掲示をして必要性を具体的に伝えている。戸外遊びでの滑り台の使い方や約束事を知らせ、安心安全な体作りに役立っている。散歩時は二人以上で出かけ、子どもの手を離さぬように歌を唱って集中させる工夫も取り入れている。室内では走らずに歩こうと呼びかけ、ダンスの折にはマットを敷くなどの怪我防止にも配慮し、心肺蘇生やAEDの実施研修も行っている。</p> <p>職員間で子どもの健康状態の情報を共有し医療機関や専門機関との連携を図っている</p> <p>毎日健康チェックを欠かさず食欲、睡眠、便、外傷、顔つき、機嫌を登降園時に把握、申し送りをして共有している。健康診断は年2回、歯科検診1回、身体測定は毎月行い、健康カードで保護者にも伝え健康維持と成長を喜び合う機会としている。子どもの体調悪化や怪我などは保護者への細やかな説明と連絡で即対応している。アレルギー等医療的ケアが必要な子どもの入園にあたっては園医や月1回訪問の看護師との相談で個別対応し、区子ども支援センターの巡回指導を受け専門機関との連携をする準備もある。</p> <p>保護者との連携で子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている</p> <p>重要事項説明書を通して体調管理、健康診断、予防接種、SIDS等について保護者の理解が得られるように詳しく情報提供をしている。区の看護師による保健便りが月1回出されていて健康の注意喚起を促している。自治体からの感染症流行の通知を受けた場合は必要に応じて掲示、配布している。園内の発生にはお知らせボードで即対応している。SIDSの予防ではうつぶせ寝、暖めすぎ、家族の喫煙などの危険因子について知らせ、保育所でも0才児の5分間チェック、1、2才児の10分間チェックを実践している。</p>			
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>充実した保護者支援で安心感や信頼へと繋いでいる</p> <p>毎日の登降園時の会話、ブログ、連絡ノートはリアルタイムで子どもの様子が分り楽しみに繋がっている。。特に降園時にはその日の気づきや良かった点に着目した報告を心がけ安心感に繋げている。家庭や仕事の事情での保育時間の延長には必要に応じて夕食を提供している。園日よりクラス便り保育参観、クラス懇談、行事等充実した保護者支援は一人ひとりに寄り添う形で行われている。子育て玉手箱は毎月広報され子育て相談等テーマを掲示し知らせしている。保護者閲覧用ファイルで事業計画、報告、年間行事等も誰でも見られるよう玄関に置かれている。</p> <p>保護者同士が交流の出来る機会を設けている</p> <p>年2回の保護者会、保育参観、行事等で保護者の養育力が向上し保護者同士の交流の機会となっている。保育参観では保育者の動きを見てもらい子どもへの関わり方を学んでもらったり、クラス懇談では他保護者の話を聞いて参考にしてもらったりしている。運動会や夕涼み会、お楽しみ会では子どもと一緒に楽しみ、応援し感動し一緒に遊んで子ども理解に繋げ、響き合う中で保護者同士の交流も図られている。</p> <p>保護者と子どもの発達や育児についての共通認識を図る取り組みで信頼関係を深めている</p> <p>毎日の送迎時の声かけ、連絡帳を通してのコミュニケーション、年2回の個人面談、クラス便りを通して子どもの発達や育児について共通認識が得られるよう努めている。クラス懇談では家で野菜を食べていないが保育所ではよく食べているようで嬉しいとの保護者感想に共感しながら和気藹々と話を進めている。一人ひとりの話が聞けるような配慮で臨んでいる。降所時には気づきやうれしいことを伝える事で安心へと繋げ、個人面談では話しやすさに配慮して対応している。保護者のお陰で楽しい保育が出来ている事への感謝も伝えることで信頼関係を深めている。</p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源の活用で多様な体験や交流をし生活の幅を広げている 近くの公園への散歩で、蝉や木の実を見つけ自然に親しみ、坂の芝の上を走ったり、ドラえもん像、ミストや噴水にも出会ったりして風景を楽しみつつ体力作りをしている。庁舎では、建物内の警備員や郵便局員、ご飯屋さんと挨拶を交わしたり届け物を持って行き親しんでいる。外部講師を年数回招き、リトミックや音楽体験の機会を設けたり、出張コンサートも行われている。多様な体験や交流で生活の幅を広げている。</p> <p>園、地域の行事で職員以外の人と交流できる機会を確保している 夕涼み会の公開行事は参加者を募り、園外の人も参加し園内での交流が実現している。子ども夏ヶ関デーは庁舎内のイベントでタクシーに乗ったり、クレーン車体験、積み木のおもちゃコーナーで遊んだり8月の2日間を楽しく過ごしている。勤労感謝の日の行事では牛乳パック収集の協力を頂いたコンビニ、お世話になっている守衛さんにペン立てやクリスマスツリーの飾り物を送り感謝の気持ちを伝えている。お月見会での祖父母との交流、お団子作りも大きな楽しみの1つになっていて職員以外の人と交流する機会を確保している。</p> <p>これからの地域交流や育児支援に期待したい ビジョンの1つに地域社会のすべての子育て家庭に対する様々な取り組みによる育児支援を挙げている。夕涼み会は地域の方の参加を呼びかけ、外部の親子参加を可能にした行事になっている。継続することで内容の充実を図ることを期待したい。園の立地の問題で地域との関わりの限界はあるが情報収集でヒントを掴み創意工夫で可能な枠を広げていきたい。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル①	職員の研修体系が優れている	
内容①	新人は本社での配属前研修で理念の理解とグループマインドの醸成を求められる。その後年4回基本習得のBasic研修を受ける。現任職員は階層別研修としてコーチ研修、リーダー研修、管理者研修が有り、別途専門研修がある。また、都や区が実施する各種専門研修を希望や必要に応じて指名し受講している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル②	定着率向上のため働きやすい職場づくりに努めている	
内容②	残業時間を確認し個別に負担軽減を検討し削減の成果を上げ、また、有休休暇・希望休が公平に取得できるようにシフト編成を配慮し、職員とは2～3ヶ月毎個人面談して考えを聞きモチベーションの向上に努めている。また、人間関係の配慮として、挨拶は笑顔で目を見てする様に心掛け、職員間で相手を尊重して助け合うことを大切にしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル③	子どもの成長の姿を保護者と共有、皆と一緒に喜び楽しく響き合う行事の取り組みがある	
内容③	保護者と一緒に運動会やお楽しみ会、夕涼み会の取組みはいつもの保育室で子どもに安心感をもたせ主体的に自分から楽しく活動することができている。運動会は普段の遊びからの構成でかけっこや親子触れ合い遊び等で体を動かして思い切り楽しみ、お楽しみ会も保護者席を設け目の前で保育者と一緒に歌や絵本からのごっこ遊び、大好きなダンスで成長を見てもらい、皆と一緒に喜び笑い響き合う感動を包み込むような時間となっている。夕涼み会のお店屋さんやポーリング等、楽しい演出の工夫も子どもの成長の姿がよく見えて皆を優しい気持ちに誘っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりに丁寧に時間をかけて関わり安心して保育者との信頼関係を築き、主体的な活動で意欲や自信を育てている
	内容	小規模の園の特徴を活かし子ども一人ひとりに丁寧に時間をかけて関わっている。評価者の観察では保育者は子ども一人ひとりに抱っこや膝座りを快く受け入れ言葉をかけ、遊びたかった思いを言葉にしており子どもに寄り添う笑顔が愛着関係を育てている。1歳児が本棚から好きな絵本を持ってくると保育者は「この本おもしろいね」と読み始め、2歳児が玩具箱から使いたい玩具を見つけてくると「今日は何にしますか」と声をかけ主体性を尊重した関わりをしている。子どもの主体性を尊重した関わりが信頼関係に繋がり、子どもの意欲や自信を育てている。
2	タイトル	ブログや会話、園だより、個人面談等で子どもの様子を丁寧に伝えることで保護者との高い信頼関係を築いている
	内容	メモ付写真ブログや会話、連絡帳でその日の子どもの様子を丁寧に伝えている。ブログは職員同士が毎日協力して更新し、保護者に子どもの育ちの理解を促し安心を提供している。園だより、個人面談等でも子どもの学び、遊びのブーム、友達との関わり等をわかりやすく伝え共有している。保育参観や行事での体験は子どもの成長を共に感動する機会となっていて、保育者の関わりを学び養育力を高める場となっている。種々の分りやすい情報や体験、一人ひとりに寄り添った連携は安心に繋がり、高い信頼関係を築いている。
3	タイトル	散歩を通し自然の生き物に触れたり、好きな絵本を見つけるなど乳幼児の育ちの力を伸ばす環境づくりに取り組んでいる
	内容	進んで遊べるように散歩マップにある公園に体力づくりもかねて毎日出かけている。ダンゴ虫は興味・関心が高く指先で集める遊びが続いている。セミの抜け殻を見つくと手の平にのせて観察が始まり、また、バッタを夢中になって追いかけることもあり、自然に触れ進んで遊ぶ主体的な環境となっている。絵本も毎月、発達や時期に応じた本を選定して並べ、自由に見られる環境をつくり、子どもたちは豊かな感性を磨いている。園保育目標の取り組みにある「育ちの力を伸ばす」よう自然や絵本から良質で豊富な体験が出来る環境づくりを工夫し実践している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの発見や感動を捉えた保育記録を全体で話し合い、職員の学び、喜び、意欲、挑戦に繋げ創意工夫のある保育実践の充実に役立てたい
	内容	毎日の記録は子どもの発見や感動、驚き、輝きを捉え、保育者の思いが伝わる指針のねらいに添った育ちの記録となっている。ダンゴムシ探しに夢中になり分担をしチームワークで捕まえたという散歩の記録、保育者は仲間と一緒に2才児が繰り広げた遊びに着目し成長の記録を残している。2才児の夢中の遊びやチームワーク、毎日の遊びで培った成果など子どもの輝きを捉えた保育者の記録を全体で共有討論することで保育の喜びや意欲に繋げ保育の質を高めていきたい。また、2才児の遊びのブーム到来にも着目、夢中になれる不思議を話し合いたい。
2	タイトル	職員主体の会議で「やりたい保育」や「保育内容」を話し合い、保育目標を共有化し日常的に保育の質を高め合える関係が望まれる
	内容	園内での検討事項は、職員の主体性、納得性を重視し、全職員が会議に参加して意見を言えるように配慮し、会議の発言を活発に行うために、人数を絞った会議で意見交換したり、事前に議題を提示したり工夫をしている。職員は、小規模で0歳・1歳・2歳児一人ひとりの成長に丁寧に関わることが出来るということが入職の動機であり、特に保育理念・目標にもとづく「保育者がやりたい保育」について「想い」が沢山あると思われ、職員間で話し合い、保育目標を具体的に明確にすることで、共通の目標のもとで日常的に職員間で高め合える関係が望まれる。
3	タイトル	事業計画を職員参画のもとに具体化しPDCAを確実に回すことで組織力の向上を期待したい
	内容	事業計画として3つの重要課題を意識し日々達成に向けて努力し、毎月の職員会議で個別テーマで共有している。出来れば次年度は3つの目標について5W1Hで具体化し毎月の会議で進捗を把握しPDCAサイクルを回す様に期待したい。また、別途「保育の月間・週・日の指導計画」に関するPDCAを毎月話し合い、職員個人目標のPDCAサイクル成長と合わせて3つのPDCAサイクルを連動して回すことを意識して組織力の向上を望みたい。年度計画の作成には職員の参画のもとで検討する事も望みたい。